

相良地区災害公営住宅への入居に向けて



令和6年1月からの入居に備えて、エアコンやIH調理家電の購入、引っ越しをどうするか等、準備を進められていることと思います。



お困りのことや、心配なことがありましたら、**支え合いセンター相談員**にご相談ください。

東間コミセンの

オープンカフェ

仮設住宅ではない場所でのオープンカフェを「スマイルだよりNo.5」で紹介したところ、「スマイルだよりを見て来たよ～」と初めて参加して下さる方もおられ、和気あいあい楽しい時間となりました。

皆さまのご参加をお待ちしています♪



新品の小型仏壇があります

輪島漆器仏壇店様より小型仏壇のご寄付をいただいておりますが、残り1基となりました。ご購入の方は人吉市地域支え合いセンター（☎0966-24-5570）もしくは相談員までお声掛けください。

サイズ：縦34cm 扉開幅38cm 奥行19cm



大きさの参考のため、500mlのペットボトルを置いています

秋から冬は空気が乾燥し、火災が起きやすい季節になります。調理中の火の止め忘れ、暖房器具の電源の切り忘れ等に注意し、火事を起こさないよう



火の用心
しましょう！



人吉市地域支え合いセンター



スマイルだより

No.6
2023.10

被災された方々が生活再建できるよう、「見守り」「生活・健康支援」「地域交流の促進」など総合的な支援を行っています。

編集発行 人吉市地域支え合いセンター
人吉市西間下町4-1番地1
☎0966-24-5570

支え合いセンターには、令和5年10月現在24名の相談員がいます。今回から相談員紹介も兼ねて、手記を掲載していきます。牛島・宮川相談員は被災者でもあり、現役の民生委員です。被災者の気持ちに寄り添い、民生委員としての経験やネットワークを活かして支援をしています。担当町内は、二日町・五日町・七日町・九日町・上新町・下新町・北泉田町・南泉田町・鬼木町・北願成寺町・南願成寺町です。

私共自身も被災し、住まいの再建も半ばの時、被災者見守り支援の「支え合いセンター」が設置され、相談員をお受けする事となり「被災者」から「支援者」と気持ちを切り替えながら「2人1組」での活動となりました。

まずは「戸別訪問」という難しい課題から始まり、常に被災者の立場に寄り添う事、近頃では申請書類等が増え、なかなか書類では伝わりにくい事をお伝えする訪問となっています。コロナ禍という時期も重なり、災害がきっかけで孤立が見え心配な頃に民生委員、町内会、ボランティア等の方々との「つながり」を持つ事が出来るようになり、心強く活動が出来ました。「最後の一人まで」の合言葉を励みに私共の任務は続きます。

住まいの再建が済んでからも、この災害を乗り越えて来た者同士、いつもどこかでつながっていく事を願っています。



(1班 牛島智子・宮川初代)



私たち頑張っています！

鳥飼 マリ様

避難先から帰宅して我家を見て唖然としたあの日から3年が過ぎました。その間、社協の方、友人達、家族、ボランティアの方達に励ましの声を掛けていただき大変勇気づけられ元気になりました。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

友人のアパートに移り一安心しました。一時期心が折れそうな時もありましたが、どうにか乗り越える事が出来ました。

この度、自宅を再建する事になり、決意してくれた家族には感謝しかありません。5月に引越する事が出来、当分一人住まいですが、草取り等無理ない様、健康に気を付けて子供と同居できる日を楽しみに暮らしていけたらと思います。

(担当：牛島智子・宮川初代相談員)



倉原 家継様・クニ子様

現在地に新築移転して7年目の被災で、茫然自失。考える余裕もない中、高校生をはじめ沢山のボランティアさんが献身的に排土や片付けと、リフォームへ着手できる状態にして頂き、感謝の気持ちでいっぱいでした。

被災5か月後には最愛の息子が52歳で旅立ち、何をやる気にもなりませんでしたが、親戚や多くの方々の支えで何とか乗り切ることができ、心から有難く思っています。

これからは、夫は亡き息子の服を愛用しての散歩や庭の手入れ、妻は手話ダンスと各々の趣味を楽しみながら、夫婦共通の太極拳も自分たちの健康の為に続けられたらなあ〜と願っています。

(担当：高村龍子・橋本省子相談員)



大柿 エミ子様

災害当日、大柿から上薩摩瀬町の息子宅に避難していましたが、お嫁さんが買い出しに行った直後に水が押し寄せてきました。消防署の人がボートに乗って救助に来てくれ避難しましたが、ボートがひっくり返り、投げ出され流されてしまいました。その後の記憶はありませんが、流されているところを消防署の人に洋服をつかんで引き上げてもらい、心肺蘇生で息を吹き返したそうです。医療センターに1か月入院しました。消防署の方のお陰で命拾いました。

また、入院していた間に、現在のみなし仮設住宅を見つけて、生活できるよう全てを整えてくれた息子、お嫁さん、孫に支えられて今日があります。

(担当：城本博子・今村朱美相談員)



尾方 和敏様・博子様

豪雨災害より早3年。我家も住居・納屋等が全壊の被害に遭いました。途方にくれるそんな中、親戚友人等そして、多勢のボランティアの方々に物心両面にわたり助けていただきました。暑い中汗や泥にまみれながらの奮闘に頭が下がりました。

大柿町内も遊水地にとの説明会があり、地質検査の結果、我が家は遊水地域外となりました。しかし、気がつけば町内は人も家も減り淋しい状況。今後の気象の変化もどうなるのかわかりません。それでも家族の話合いの結果「大柿がいい。」ということで元の場所に、今年1月に自宅と納屋を再建致しました。

おかげさまで今は、落ち着いた毎日をすごすことができいております。これまでお世話になりました方々に心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(担当：笠場美代子・林美穂子相談員)



西 一公様・彰子様・澤田 タミエ様

被災当日朝5時、駐車場に残った泥を洗い流し、聞き慣れない線状降水帯という言葉も聞いて「うちは大丈夫だろ!」とあわてませんでした。しかし滝のような雨、どんどん増えていく溝の水量。さすがに怖くなり、90歳を過ぎた母を2階へ避難させたと同時に玄関はあっという間に水で一杯になってしまいました。

その後1年間は、母は1階の一室で、私達は2階で過ごしましたが、その間度々支え合いセンターの相談員の方が訪ねて下さったり、あちこちの友人からも励ましを頂き感謝でした。

今は別校区に自宅を再建して元気に過ごしています。大雨が降るとまだドキドキしてしまいますが、今後の人生、私も誰かの助けになれるよう健康に気をつけながら過ごしていきたいと思っています。

(担当：国武美幸・井手桂子相談員)



迫田 三代子様

甚大な水害から早いもので3年が過ぎ、あっという間の日々でした。今振り返って見ますと何もかも失ってしまいあっ気にとられ言葉も出なかったのが昨日の様です。これからどうしたらいいものかという思いでいる中、県内外からのボランティアの方々、支え合いセンター相談員の方々、親せき、同級生が私の分までのお弁当を用意して頑張ってお下り、心温まる励ましでどれだけ力が湧いたか分かりません。

私は理容店を営んでいることもあって、同業の方々から仕事に必要なものを持って来て下さり、お陰で壁もない中でお得意様が来店下さって「ざっとでよか〜」と言って、どれだけ嬉しく励まされ、涙したことを思い出します。カット、顔剃りが終わった後のお客様が笑顔で「ああ気持ちが良くなった」と言われた時には、今の仕事をしていて良かったと心から思いました。

これからも今以上に心のこもったおもてなしをし、感謝を忘れずお客様に喜んでいただける理容店でありたいと思います。日常を平和に暮らす有難みを改めて感じた3年間を支えて下さった皆様、本当に有難うございました。

(担当：菅浦幸子・大瀬彦一相談員)



里帰り中の息子と孫